



難局乗り越え 新たな歴史をつくろう

令和3年度新入生 おめでとう

爛漫の花の下 晴れやかに 319人

い専門性を身につけてほしい」と
呼びかけました。

続いて派遣留学などで提携する
アメリカ、ロシア、中国、韓国、
カナダの5大学から寄せられた祝
福メッセージをスクリーン映像で
紹介。在学生代表の歓迎の言葉を
受けて、新入生代表の経営学科・
外谷森太郎さんが「4年間を有意
義なものにするため、好奇心を忘
れず、日々成長していくことを誓
います」と抱負を述べました。

昨年度はコロナ禍で中止された
ため、2年ぶりの入学式となりま
した。今回は感染防止対策のため
入場者を制限し、保護者は別会場
で映像を閲覧、恒例の「校歌齊唱」
もない異例の式典となりました。
また、会場に来れない保護者やご
家族が自宅などでご覧いただける
よう、YouTube Live で同時配信を行いました。



CONTENTS

2~5面

令和3年度入学式特集
学長式辞
新入生代表・私の抱負

在学生代表・歓迎の言葉
新任教員紹介
両学部長のメッセージ
オープンキャンパス案内

6~7面

佐藤泰子研究室
語学を活かしてボランティア活動
佐々木寛社会人ゼミ
個別企業説明会
湧源
教員の活動

8~12面

令和2年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
退職教員あいさつ
JABEE認定プログラム 23人に修了証書授与
卒業にあたって 特別表彰
式典スナップ



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



Instagram



Twitter
[@nouis_nabbit](https://twitter.com/nuis_nabbit)



YouTube
公式
チャンネル

入学式

式 辞



大学情報国際新潟学長 野崎茂

れた生活と、さぞかし気を揉むことの多かつた1年であったことでしょう。他の学年、他の世代以上に大変な1年を送つてこられたのだと思います。

本学でもご多分に洩れずコロナ騒動に翻弄され続けた1年でした。これを簡単に振り返つてみましょう。

1年少し前コロナ厄災が猛威を振るい始めた春先、本学は直ちにオンラインによる遠隔授業の導入を決定し突貫作業で訓練を行つた結果、周囲に先駆けてGW前にはオンライン遠隔授業開講に漕ぎ着けることができました。そしてそのままGWを返上し学修を続け、前学期終了時には遅れを挽回致しました。また遠隔授業で対応していた前学期中にあつても新入生に関しては「キャンパス内を知らない。同級生とともに顔を合わせたこともない。」という不満を少しでも解消してやりたいという意味合い同じ気持ちで皆さんを迎えるようとしていることと思想です。そして本学で学ぶことを選択し入学してくださった皆さんを、私たち教職員一同皆さんを迎える今日のこの日を心待ちにしておりました。昨年は残念ながら入学式を挙行することが出来ませんでした。本日は本当に心から待ち望んでいた日であります。皆さんの先輩たちも

新入生の皆さん、本学への入学おめでとうございます。

私たち教職員一同皆さんを迎える今日のこの日を心待ちにしておりました。昨年は残念ながら入学式を挙行することが出来ませんでした。本日は本当に心から待ち望んでいた日であります。皆さんの先輩たちも

を施したうえで、敢えて従来型の対面授業に移行することと致しました。こうして振り返つて見ますと、もちろん自画自賛ではあります、早め早めに万全の対策を講じながら常に半歩先、あるいは一步先を進んできた感があります。

この1年間、多くの大学生が「自分が入学した大学のキャンパスに顔を出すこともできない。授業はすべてオンラインだ。教師や友人たちとゆつくり語り合うこともできない。」と不満を募らせていましたと報じられています。政府からの要請もあり、各大

学においては今年度に入りようやく対面授業の割合が増えつつあるようですが、本学ではこまめにアンケート調査を実施して皆さんの要望を聞きながら安全かつ充実したキャンパスライフを送つてもらうことに腐心しております。

これから皆さんと一緒に始めて参ります新学期もこの路線を踏襲していくつもりです。

平成6年（1994年）創立の本学は昨年には新たに四半世紀に向けて第一歩を踏み出し始め、この機に合わせて「新潟国際情報大学（NU IIS）中期計画 II（2020-2024年）」を策定致しました。

大学は異なる他者と交わる場

も込め、みずき野キャンパスへ参集してもらうなどの企画も実施致しました。

9月から始まつた後期授業においては、本学周辺の他大学が遠隔から対面授業への切替えにためらいを見せており中ではありますたが、感染状況を慎重に見極めながらス感染症への対応に加え受験勉強に明け暮れました。

新潟県の警報、指示に従うなど万全の対策

遂に向けて努力して参ります。

こうして新たな歩みを始めておりますタイミングに国際学部国際文化学科に127名、経営情報学部経営学科に109名、同

情報システム学科に83名、合計319名の新入生の皆さんを迎えることとなりました。これが皆さん方第29期入学の同期生

とのことです。同期生の顔を覚えるのにちょうどいい規模、同期生のみならず先輩、後輩も含めた強力なネットワークを構築することが出来る適正な規模なのではないでしょうか。

私たち教職員は皆さん方がそれぞれの志を全うできるよう、そして「国際化、情報化の社会の中で高い専門性を身につけ、豊かな人間性を兼ね備え社会に貢献できる人材」に育つて行くよう全力を尽くします。

ところで大学で学ぶこと、他ならぬ本学で学ぶことを選択してくださった皆さんにお尋ねします。本学で学びたいことは何ですか。そしてそもそも大学で学ぶということはどうなんことでしょうか。

多くの方が知識、技術を身につけ世の中に役に立つ人間になりたい、即戦力として活躍できる人間になりたいと考えておられることがあります。当然のことだと思います。それだけではないのではないか。大学で学ぶということはすぐにその場で役に立つ技術や知識をただ単に教えてもらうことではないはずです。

皆さんはこれから学びの際にこれまで以上にパソコンやスマートを多用することになるはずですが、既存の技術や知識であれば気の利いた検索エンジンを利用することによって、その信頼性はともかく、何らか

の回答は簡単に得られるはずです。しかしそれは単なる情報の検索に過ぎません。いわゆる「コピペ」による安易な引用と同じことになります。つまりこれは単に既存の知識を写し取つただけ、真似ただけに過ぎません。大学で学ぶということは外から取り入れた知識や情報を自分で咀嚼し、整理し、体系づけて組み直してみる、そういう訓練をするということにほかなりません。そのためには自分のそれまでの考え方を乗り越えていくきつかけが必要であり、それには自分とは異なる考え方を持つ他者と交わる場が必要なのではないでしょうか。そうした交わりができるだけ多く、広く持つような「場」を作つて行くこと、それこそが大学生活を送る醍醐味なのではないでしょ
うか。

そして更に皆さんに充実した大学生活を送つていただきために本学では哲学、美学、

文学、音楽といったリベラルアーツの世界に遊び、大学生としての一般教養を涵養することも奨励しています。その一助とすべく本学は13万冊を超す蔵書を抱える図書館を設け、最近では毎年約4～5千冊の図書書籍を購入しております。ここにこの度

未来を創る大学

本学の新たな歴史をつくろう

化を形成する重要なコンテンツとして捉え、今般図書館内のコーナーとして設置いたものです。これは新潟の大学としては初めて先進的な取組みであると自負しております。皆さん是非本コーナーに足を運んでみてください。そして本コーナーの新設が他の図書書籍を含めた図書館全体の活発な利用につながることを期待しております。さて、皆さんにもう一つ是非お伝えして

中でも、世帯収入への影響やアルバイト機会の減少などにより、経済的な困難が生ずることがあるかも知れません。万一そのような事態が起こった場合にということですが、昨年度から国も修学支援制度を充実させておりまますし、日本学生支援機構をはじめ県や市の奨学金制度あるいは篤志家による奨学金制度もあります。本学でも独自の奨学金制度を設けて皆さんのが大学生活を安心して送ることが出来るようサポートをしております。現在は在学生の約75%の方々が何らかの形でこれら奨学金を利用しておられますし、最近3年間にはそれぞれ20件を超す家計急変相談があり、それぞれ適切に措置が講ぜられておりま

り越えていくきっかけが必要であり、それには自分とは異なる考え方を持つ他者と交わる場が必要なのではないでしょうか。そうした交わりをできるだけ多く、広く持つような「場」を作つて行くこと、それこそが大学生活を送る醍醐味なのではないでしょ
うか。

そして更に皆さんに充実した大学生活を送つていただきために本学では哲学、美学、

「N.O.9」を新設致しました。こ

ンスのルーブル美術館

おきたいことがあります

が大学生活を送る醍醐味なのではないでし
うか。
そして更に皆さんに充実した大学生活を
送つていただきために本学では哲学、美学、

私たちの社会活動や経済活動に甚大な影響を与えております。現在も行動規制や経済活動の縮小などを余儀なくされているところです。皆さんのこれからの大學生生活の途

経済的理由による休退学は絶対起こして

私の抱負

新入生代表 経営学科 1年
外谷 森太郎

報を得たり世界
中の人々と繋が
つたりする機会
が増えていま
す。このような

好奇心を忘れず

成長続けたい

二

ます。

暖かな春の訪れとともに、私たちは新潟国際情報大学の入学の日を迎えることが出来ました。

な素晴らしい入学式を挙行して頂き、誠にありがとうございます。また、数々の激励

世界には、私たちが活躍できる場がたくさんあると私は考えます。こういった場を得るために、外国の人達とコミュニケーションをとるための言語や情報を発信する技術が必要となります。こういった知識や技術が必要となります。

情報大学での4年間を有意義なものにするために、好奇心を忘れずに経験豊富な先生方から知識や技術を学び、日々成長していくことをお誓いし、新入生を代表し、抱負とさせていただきます。

さあ皆さん、一緒に手を携えてこの新しい四半世紀の歴史をつくり参りましょう。



在学生代表
情報システム学科
島垣 光

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またご父母の皆さんにも、お祝い申し上げます。在学生を代表し、皆さんに歓迎の意を表したい

何事にも挑戦しよう

二つ目は、「友達や仲間を多く作ること」です。これは一つ目に

はじめに、私は昨年度の入学式でも在学生代表としてご挨拶させていただく予定でしたが、

未だ世間で猛威を振るっています「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴い、残念ながら皆さんのお一つ上の先輩たちは入学式を挙行することができませんでした。しかし、本年度は

様々な対策を取られたうえで、こうして皆さんに歓迎の言葉をお話しさることのできる機会を

いただいたことを、大変嬉しく感じています。

さて、新入生の皆さんには今、どのようなお気持ちもある一方で、不安や心細さもあるかと思います。そこで私からは二つ、大学生活を充実させるうえで大切なことを、アドバイスしたいと思います。

一つ目は、「何事にも積極的に挑戦すること」



| | |
|--------------|--------------|
| 日本私立大学協会 | 会長 小原 芳明様 |
| 新潟県 | 知事 花角 英世様 |
| 新潟市 | 市長 中原 ハ一様 |
| 新潟商工会議所 | 会頭 福田 勝之様 |
| 新潟国際情報大学 | 同窓会 みづき会 |
| みづき会会长 高橋 毅様 | |
| 株式会社日本ドリーム | 代表取締役 小林淳一郎様 |

です。大学は皆さんのが今まで過ごしてきた高校とは違い、とても自由です。それは学修においても、今まで「与えられてきた課題」が中心の学習から、自分自身で「課題」を見つけ、それらを解決する場面が多く求められます。これはこの先社会に出ても求められる力であり、大学で過ごす4年間はこの力を養うには絶好の期間であると思います。そこで、多くの「課題」を自分に課すうえでも、ぜひ何事にも積極的に挑戦し、学生の間にしかできないような経験を多くして欲しいと思います。

二つ目は、「友達や仲間を多く作ること」です。これは一つ目に

お話しした、もし自分で見つけた「課題」への挑戦でつまづいたとき、そこに頼れる仲間がいることは、とても大きな支えになります。私自身も、挑戦している課題に何度もつまづき、挫折しそうになつたことがあります。ですが、そこで私が救われたのは、同じクラブの仲間や先輩であつたり、一緒にいてくれる友達の存在です。皆さんにはこれから、多くの「友達」をつくる機会があります。そして大学でできた友達や仲間は、自分が困つたときに必ず支えになってくれるはずです。ぜひとも新しくできた「友達」や「仲間」を大切に、今後の学生生活を送つてほしいと思います。

大学は、勉強することだけがすべてではありません。自分が興味あることや挑戦してみたいことには積極的に行動を起こし、様々なことを経験してみてください。どんな結果でも、かならず自分の「貴重な経験」になるはずです。

最後になりますが、新入生の皆さんにこれから4年間の学生生活が充実したものになることを願い、歓迎の言葉とさせていただきます。

木村 誠 きむら まこと

経営学科 教授

担当科目

●経営情報論 ●流通論 ●デジタル戦略論

略歴

東京大学大学院工学系研究科博士課程単位取得退学／長野大学企業情報学部教授



新任教員紹介

梅原 英一 うめはら えいいち

情報システム学科 教授

担当科目

●情報産業 ●コンピュータシステム
●情報プロジェクト特論

略歴

電気通信大学／野村総合研究所でトレーディングや資産運用システムの開発に従事／東京都市大学名誉教授



新入生に望む

治時代の一時期日本では、一番人口が多かつた新潟県ですが、現在は全国第15位です。人口推移からみても、新潟県はまさに課題先進県と言えるでし

企業や団体での仕事を通し、社会の課題を解決していく上で必要な学ぶ力をしつかりと身につけることです。そしてその

係する人たちとの関係を豊かにしな
取り組めば、何事も成就するはずで
皆さんの挑戦を期待しています！

何事も受け入れ、やつてみよう

昨年はコロナ禍に翻弄された1年でしたが、しばらくはこの状況が続きそうな気が配がします。日本は課題先進国と呼ばば

から自分の人生をじっくりと考えてみようという人もいるかと思います。大事なことは4年間の大学生活の中で、将来、

A black and white portrait of a middle-aged man with light-colored hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is smiling and looking towards the camera. The background is slightly blurred, showing what appears to be an office or institutional setting with large windows.

小林 満男 学部長

経営情報学部

大学は、〈眞理〉を探究し、發信するところです。生きる上で、何が善くて何が悪いのか、何が成功で何が失敗なのか、一から考え直します。

皆さんのが今まで「正解」だと思つてきたものは、必ずしも正しくはないかもしれません。皆さんのが今まで毎日気にしてきたことは、もしかすると本当はどうでもいいことかもしれません。たとえば、皆さんのが受験勉強の際に試さ

「自由」

「の中を独り歩む」
薄っぺらい「成功」なんかも、信じては
いけません。すべて自分の頭で考えて、一
歩一歩「自由」に、自分の道を切り拓いて
いくしかありません。

A black and white portrait of a man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a light-colored shirt, and a patterned tie. He is smiling and looking directly at the camera.

佐々木 寛 学部長

「自由」の中を独り歩む力を

資格や単位も大切ですが、大学ではそれよりも、この「自由」の中を独り歩む方法を学んでほしいと思います。「自由」は、時に孤独を要求するのでしんどいこともあります。ですが、それが、きわめて不確実な世界を生きる皆さんの卒業後の人生にとって、最大の贈り物になるでしょう。卒業後も錆びつかない、ホンモノの知性を身につける中で、ホンモノの友人にも

う。

力

を

先生方が皆さんを待っています。

入学おめでとう。皆さんと出会えたことを心から嬉しく思います。皆さんは、22世紀を見ることになるかもしれない世代です。いつしょに、この世界の未来の姿も考えましょ

学びを「習慣」にすることです。そうすれば将来の不測な事態に遭遇してもあわてなくて済むはずです。

第1回 7/11(日)

第2回 8/1(日)

高校生のための nuiS体験 イベント!

〈1回目〉 7/11(日) 〈2回目〉 8/1(日)

- ◆学部・学科紹介 ◆入学者選抜情報
 - ◆模擬授業
 - ◆語学体験（英語・ロシア語・中国語・韓国語）
 - ◆入学者選抜対策講座 ◆コンピュータ実習
 - ◆実験体感コーナー
 - ◆入学者選抜・海外留学・就職・学生生活個別相談
 - ◆小論文対策講座 ◆キャンパスツアー
 - ◆在学生によるなんでも相談
 - ◆保護者対象プログラム

会場 新潟国際情報大学 本校 新潟市西区みずき野3-1-1
(JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)
参加お申込み 本学ホームページまたは下記までお申込みください

参加お申込み 本学ホームページまたは下記よりお申込みください。

お問い合わせ先 入試・広報課 TEL 025-264-3777(直) E-mail nyushikouho@nus.ac.jp

語学を活かしてボランティア活動

佐藤泰子研究室では、これまで観光学や新潟県内・市内の観光に関心のある学生、外國語を活かして地域に貢献したいと望む学生によるボランティア活動を続けています。

活躍する外国人や観光関係者と意見交換をしながら取材を行いました。その取材で得た情報や観光スポットなどを、各自のSNS（インスタグラム、フェイスブック、ツイッター）を使って、現地から発信しています。

また、今年は県国際観光協会と

コロナ禍で様々なインベントが中止や延期となる中、学生の積極的な学びや歩みは止まらない。昨年から新潟県の「新潟県観光サポート」に任命された学生7人が、10月から2ヶ月かけて県内のALT（外国语指導助手）や留学生、大学生とともに県内3カ所（長岡、十日町、燕三条）を巡り、現地で

NUiS観光プロジェクトを立ち上げ、4月から着地型観光プログラムに着手する予定です。

県観光サポートに任命されたのは、相澤裕花、市野瀬衿花、佐藤陽美、野澤海乃（以上2年）、内藤奏音（3年）、竹内由貴、中山未悠（以上4年）の7人。昨年

サポーター取材ツアーに参加して

私は、「新潟県観光サポーター」として観光PRのため、県内在住の外国人や留学生の方々と一緒に十日町や燕三条地域を巡る取材ツアーリに参加し、地域の方と意見交換や交流を行いました。

有名なインフルエンサーによる英語ライブ配信では、撮影の裏方として参加。様々な活動を通じ、新たな視点や新潟の隠れた魅力に気付くことができました。



新潟県観光サポーター会員証

Carp harvesting



長岡市山古志地区・星野吟二さんの錦鯉の池上げ作業を取材

This carp was about 50 centimeters.



Tunnel of Light / Kyotsu Gorge Tunnel



十日町市の日本三大渓谷「清津峡」からインスタ配信

現地からSNSで発信された観光情報

Lunch Time!!



In Ubusuna House

かやぶき民家「うぶすな家の集落の皆さんの手づくり料理

Lunch Time!!



In Ubusuna House

かやぶき民家「うぶすな家の集落の皆さんと一緒に

イベント配信 URL:<https://www.facebook.com/events/501333544081952>

12月には、野澤海乃さんが「Exploring Niigata vol2」の生配信撮影ボランティアとして参加

（国際学部 講師 佐藤泰子）

しました。制作した観光動画は左記のURLから見ることができます。

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2021年1月) 中国社会科学院日本研究所 第12回優秀論文「隅谷賞」受賞（「隅谷賞」とは、日本の著名学者・隅谷三喜男先生の基金によって中国社会科学院で設立された学術賞であり、日本研究の優秀論文を表彰するものである。受賞論文は「丸山眞男思想史学的軌跡」中国社会科学院「日本学刊」2019年第3期。）

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

・(2021年2月10日) No.3「衣装と生きる女性たち—ミヤオ族の物質文化と母娘関係」（京都大学学術出版会、2020年）に関するインタビュー（ブックトーク・オンライン・アジア 京都大学東南アジア地域研究研究所）

（国際文化学科 2年 野澤海乃）

3)委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

・(2021年2月1日) 共同研究者「新型コロナウイルスによる強制的な在宅勤務は、主観的な幸福・仕事の生産性・男性の役割にどのように影響したか？」
https://www.osi.tsukuba.ac.jp/flight_covid19/magnier-watanabe/

世界に開かれた大学を実感

開講17年で参加者100人超

大学を卒業して、今年で18年。ます。卒業をしてもそういう場所で、40歳を過ぎても勉強を続けています。というかむしろ、恥ずかしながら大学生のときよりも社会人になつた今の方がはるかに学んでいる気がします。

（2004年）に始まつたこのゼミは、昨年11月で200回を数えました。毎月休むことなく続

大学の番外編といえるこうした活動が長年無償で行われてきたのは、本学があり、佐々木先

生の元中学教師もオンラインで参加して、大袈裟にいうとゼミがグローバルになっています。この間参加した人数は100人を超えます。

大学の教員であることの絶対的な条件のひとつに、読書量で学生を圧倒する、ということがある。美味しいお酒の揃つた昔ながらのバーのバーで、止まり木の客に美味しいお酒を紹介するように、素晴らしい本を紹介できることが大切だ。

と、思うのだけれども、実は自信がない。よく覚えていないのだが、この本にこんなくだりがあつた。第2次世界大戦中のドイツ。女性が死体の片付けに駆り出されていた。灰にして肥料にするためだ。有機肥料の不足が深刻化していたドイツで、街のあちこちの死体は貴重であった。そのひとつに、男女二人で抱き合つた死体があつた。固まつていて引き剥がせない。死体片付け係の女性のひとりが、ノコギリで切り離すことを命令される。その女性、しかしその上官の命令を拒否する。そのため、銃殺刑に処されることになった。ところがだ。銃殺を命じられた男の兵士が、そんなの嫌だといって、逃亡してしまう。確かにこんな話だったとおもう。実話らしい。

大学教員が学生に良き本をあたかも利酒のプロのように紹介し推薦できるようにすべきだといったところで、結局のところ、そこにどんな意味があるのか、よく分からぬ。銃殺を命じられ逃亡したこの兵士は、もしかしたら、人生で1冊の本も読んだことがないかもしれない。間違つたことをやられそうになり、逃亡する兵士。教育の所産なんかではなかろう。本能の行動だつたのではないか。わたしは、上官の命令を拒否した女性の信念の行動よりも、嫌で仕方なく逃げ出した兵士の本能の行動を信じる。

そんな限界を感じつも、新潟国際情報大学から、やがては、翻訳大賞にノミネートされるような作品を訳す翻訳家が育つていくことを、願つてやまない。

湧源

編集後記に代えて

入試委員長 白井陽一郎

個別企業説明会

佐々木 寛社会人ゼミ



右から2番目筆者

いたこのゼミで、実際に48冊のテキストを読破しました。読んだテキストは政治学からシェークスピアまで何でもあります。社会人ゼミは、本学を卒業した以外の社会人も参加していますし、社会人ゼミと言いながら、と

（有田純也

2003年3月20日、
イラク戦争開戦の日に

情報文化学科卒業

政治学から文学まで 米国からオンライン参加も

政治学から文学まで 米国からオンライン参加も

生がいたからです。本学は学生のためだけにあるのではなく、新潟や世界のためにあるのだと感じます。関心のある方はぜひご連絡ください。共に学びましょう。

Instruction and Translanguaging (15-28)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2021年1月)「人民党長期支配下で台頭するカンボジア版『太子党』」IDEスクエア(アジア経済研究所) [https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2021/ISQ202120_002.html\(1~11頁\)](https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2021/ISQ202120_002.html(1~11頁))

2)学会・研究会・講演等

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

・(2021年2月6日)「古着から展示可能な民族衣装へ：中国少数民族の装いにおけるグローバルな広がりと価値の変遷」新学術領域研究「グローバル関係学」ワークショップ「装いと規範」(京都大学・オンライン)
・(2021年2月20日)「Inheritance of Embroidery Techniques among Miao Women: Case Studies from the Guizhou Province, China」Serial Academic Webiner「Cultural Transmission against

教員の活動 (本人申告による)

1)研究論文・図書

白井 陽一郎(国際文化学科・教授)

- ・(2020年12月26日)白井陽一郎監訳 クルト・ドゥブーフ『トライバル化する世界：集合的トラウマがもたらす戦争の危機』明石書店
- ・(2021年1月1日)「E.Uは真にリバーラルな秩序を目指せるのか？」『図書新聞』(2021年1月1号)

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

- ・(2020年12月)「1978年以降の日中民間交流に関する人類学的考察：ミヤオ族の民族衣装に着目して」ANNUAL REPORT OF THE MURATA SCIENCE FOUNDATION, Vol.34 (628-634)
- ・(2021年1月) John L. Adamson, Naoki Fujimoto-Adamson "Translanguaging in EMI in the Japanese tertiary context: Pedagogical challenges and opportunities", English Medium

新潟国際情報大学
学長 野崎 茂

本日ここに学士の学位を授与された情報文化学部186名、国際学部112名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新潟国際情報大学の役員、教職員、関係者一同心より祝福致します。併せてご家族、ご友人、ご関係の皆さんにもお慶び申し上げます。

本日こうして卒業式を挙行できましたこと、誠に感慨深いものがあります。昨年令和元年度の卒業式典はご案内のとおり新型コロナ感染症の災禍により中止せざるを得ませんでした。本日ここに参列の皆さんはどうな思いで式典に臨んでおられるのでしょうか。大学生活最後の1年間不完全燃焼のまま過ごさざるを得ず、思い残すところが多かつたという方もおられるかも知れません。他方で、制約が多くある中でも精一杯の努力で所定の課程を修了したという達成感を感じておられる方もいるかも知れません。思いはそれぞれであります。我々教職員も採り得る中で最善の策を追求して参りましたとはいえ、皆さんの大学生生活最後の1年間におけるいろいろな希望に必ずしも十分に応えることが出来なかつたのではないかという忸怩たる思いが残つております。

変化の兆しを掴み 厄災乗り越えたくましく

なども相俟つて、経済的な困難に対処しなければならなかつた方も多いのですなうか。大学生活最後の1年間不完全燃焼のまま過ごさざるを得ず、思い残すところが多かつたという方もおられるかも知れません。他方で、制約が多くある中でも精一杯の努力で所定の課程を修了したという達成感を感じておられる方もいるかも知れません。思いはそれぞれであります。我々教職員も採り得る中で最善の策を追求して参りましたとはいえ、皆さんの大学生生活最後の1年間におけるいろいろな希望に必ずしも十分に応えることが出来なかつたのではないかという忸怩たる思いが残つております。

今回の厄災の渦中で、私たちは様々な我慢を強いられました。今回の事態を受けて一部には「この厄災は国際協調を退行させ、国際機関は無力となつた。これは我々が従来推し進めてきた世の中の国際化の動きに水を差すものであり、グローバル化は終わりを迎えようとしている」と論ずる向きもあるようです。確かに人の往来、物流、果ては国境を越えた技術の移転や資本の移動、投資にも大きな

変更になつたオンライン講義形式に追随しただけではなく、自主的なグループワークへの取組みに発展させるなど様々な工夫を凝らしてくれた方々もおられました。皆さんの中のデジタル能力、習熟度の高さには感心させられること頻りでした。この1年、粘り強くよく耐えてくださいました。

学修面のみならず生活面においても然りです。感染リスクを回避するため社会活動全般に亘る行動規制が敷かれ、経済活動の縮小が余儀なくされました。それに伴う世帯収入への影響やアルバイトの機会の減少

の対応ぶりには感心させられました。単に隔授業への皆さんの即座の対応ぶりには感心させられました。単に変更になつたオンライン講義形式に追随しただけではなく、自主的なグループワークへの取組みに発展させるなど様々な工夫を凝らしてくれた方々もおられました。皆さんの中のデジタル能力、習熟度の高さには感心させられること頻りでした。この1年、粘り強くよく耐えてくださいました。

学修面のみならず生活面においても然りです。感染リスクを回避するため社会活動全般に亘る行動規制が敷かれ、経済活動の縮小が余儀なくされました。それに伴う世帯収入への影響やアルバイトの機会の減少

とは言うもののここに来て、ワクチンの効果により感染拡大が一段落し経済活動が復活することを見越し再び物流が動き始めたとの報もあります。まだまだ予断を許さない状況が続いておりますが、多くの有識者が指摘するように新型コロナウイルス感染症の世界的大流行によつても、グローバル化の重要性は変わらないのではないかとおもいます。むしろこの厄災があつてもグローバル化の流れを止めてはならない。脱グローバル化は世界経済の破綻にもつながりかねません。そうしないためにも新たな多国間主義で効率的な国際協力体制を構築す

とは言うもののここに来て、ワクチンの効果により感染拡大が一段落し経済活動が復活することを見越し再び物流が動き始めたとの報もあります。まだ予断を許さない状況が続いておりますが、多くの有識者が指摘するように新型コロナウイルス感染症の世界的大流行によつても、グローバル化の重要性は変わらないのではないかとおもいます。むしろこの厄災があつてもグローバル化の流れを止めてはならない。脱グローバル化は世界経済の破綻にもつながりかねません。そうしないためにも新たな多国間主義で効率的な国際協力体制を構築す

（圧力がなければダイヤモンドは生まれない）」があります。皆さんは大いに輝く資質を備えたダイヤモンドの原石です。自らを磨き上げて、輝くダイヤモンドになつてください。磨くことを怠つてはいけません。「玉磨かざれば光なし」です。これからも磨き続けてください。

この「自分磨き」の一助となるのが同窓会ネットワークの活用です。新潟国際情報大学は創立後四半世紀を越したばかりのま



理事長祝辞

学校法人 新潟平成学院
理事長 星野 元

新潟国際情報大学第24回卒業生298名の皆さん、卒業おめでとうございます。併せてご父母の皆さん、心よりお祝いとお喜びを申し上げます。

コロナ禍のなかで昨年は、卒業式、入学式とも残念ながら中止せざるを得ませんでした。ただし、皆さんにとつては恒例の祝賀会を今年もまた開かれな

いのは寂しいことでしょう。

さて、私がここ数年間、卒業式のたびに祝辞の中で繰り返して強調してきたのは、私たちが逆境の時代のまつたなかで生きていることと、そうした試練に耐えて耐え抜いて、難局を乗り越えていこう、ということでした。そのためには「勇気」と「覚悟」をもつて果敢に挑戦することが欠かせ

ない、と訴えて参りました。

そうしたなかで、この度の新型コロナの感染拡大が加わった訳です。大規模・過激化する自然災害、多くの人命が奪われ続けているテロや地域紛争、貧富の格差拡大と世界の分断など、数えきれないほどさまざまな危機や脅威が私たちを取り囲み、核戦争の偶発的勃発も想定せざるを得ないような時代に私たちは存在していることを、強く意識しなければなりません。そこにコロナ禍、パンデミックです。私は全く疫病のことは想定していませんでした。

フランスの経済学者が新聞の評論で「疫病の怖さは、その毒性だけでなく、時代をも変えてしまう『破壊力』にある」と語つておりますが、私自身の身の回りでも、いろいろ思いあたる変化が起きています。皆さんもそう感じていなでしようか。

コロナ禍のためだけではないかも知れませんが、結果的には、そうした傷口とともにるべき社会の溝が生まれ、分断が大きく広がることによって社会の制度、仕組みが悪い方に変化していく、そんなように感じています。

1世紀前のスペイン風邪では、世界の死者が5000万人にも及び、それが結果として第1次世界大戦の終結を早めた、とも言われています。疫病が時代という歴史を変えたのです。

変化の大きな一つは、日本をはじめ世界全体、社会全体が言つてみればヒステリックな症状に陥つてきているような気がしてなりません。「民主的」とか「民主主義」の名のもとに、そうした症状が以前からあつたように感じていたのですが、コロナ禍によって加速したような気がします。コロ

る同窓会ネットワークという貴重な資産を手に入れました。同窓会は大学の力の重要な源泉の一つです。この資産、大きく広がった人のネットワーク、いざれ必ず役に立つます。是非活用していくください。そして自分でもそれをもつと広げていってください。増やしていくください。それもまた皆さんのこれから的人生にあります。

「顧みての微笑み」という言葉があります。これは本日の皆さんのような門出を迎える方達にいつも私が贈る言葉です。先ほ

逆境の時代 心の「宝物」を忘れるな

新潟国際情報大学第24回卒業式のたびに出来ますのは、誠に嬉しい限りです。ただ、皆さんにとつては恒例の祝賀会を今年もまた開かれな

いのは寂しいことでしょう。

さて、私がここ数年間、卒業式のたびに祝辞の中で繰り返して強調してきたのは、私たちが逆境の時代のまつたなかで生きていることと、そうした試練に耐えて耐え抜いて、難局を乗り越えていこう、ということでした。そのためには「勇気」と「覚悟」をもつて果敢に挑戦することが欠かせ

ない、と語っています。

その通りかも知れません。私たちいま、歴史の大きな転換点に立たされている、「新しい世紀が始まつたと考えた方がよさそうだ。例えコロナ禍が収束しても、われわれの社会や暮らし方はもう元には戻れない」と語っています。

本日の卒業式にあたり、私は一つだけ皆さんにお願いしたいことがあります。それは大きく揺らぐ時代、困難な生きづらい時代に立たされても、祖先や親や私たちが大切に守つてきたもの、譲つてはいけないものを決して忘れたり、粗末にしたり、置きざりにしたりしないでほしい、ということです。大切なもの、大事なものとは、親や兄弟姉妹との絆はもちろん友情、弱者への思いやり、ふるさとを強く想う心などなど、自分自身の「宝物」としての「心の持ち方」のことに他なりません。

最後になりますが、皆さんがこれから10年、20年経つて「本学で学んでよかつた」と思うかどうか。このことは同時に大学が役に立つたかどうか問われることにもなる訳ですが、結論は、これから先の皆さんそれぞれの「生き方」次第、「心の持ち方」次第、ということを申し上げて、贈る言葉といたします。

日本のある国際政治学者の一人も「1世紀は100年単位でなく、21世紀は2020年で終わつた。2021年の今年からは

ご紹介した、皆さんを鼓舞するようなことわざ、警句ではありません。餞の言葉としては何の変哲もない簡素でさり気ない言葉かも知れませんが、皆さんがこれから的人生の節目節目で来し方を振り返つて見た時に微笑みを以て総括ができますようにと、そしてまた皆さんのこれから的人生に幸多かれと祈りつつ私からの祝いの言葉、餞の言葉とさせていただきます。



〈総代〉国際文化学科
宮下 凌

かけがえのない4年間

冬の寒さも和らぎ、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日は、教職員、保護者の皆さまのご臨席を賜り、新型コロナウイルス感染症対策の下、こうして卒業式を挙行していただけたことに卒業生一同、心より御礼申し上げます。

4年前の春、それぞれが様々な思いを胸に秘め、大学生活をスタートさせた私たちは、いま、早すぎる時の流れを惜しみ、充実した大学生活に思いをはせながら、今日という日を迎えるました。

入学した当初、自分の中には「外国语を勉強したい」という漠然とした目標だけでした。しかし、通訳ボランティアや語学研修などの活動を通して、海外の人との交流は、ただ学ぶだけでなく、それを実践することの楽しさを教えてくれました。また、中国をはじめとした様々な国の文化、歴史、特定の分野に限られない国際的な学びも私たちの知見を大きく広げてくれるものでした。

そして、もう一つ、大学生活では多くの出会い

第24回までの卒業生は合計6,956人に

| 年 度 | 卒業者数 | 情報文化学科 | 情報システム学科 |
|-------------|--------|--------|----------|
| 平成9年度(第1回) | 295人 | 116人 | 179人 |
| 10年度(第2回) | 290人 | 124人 | 166人 |
| 11年度(第3回) | 303人 | 126人 | 177人 |
| 12年度(第4回) | 294人 | 116人 | 178人 |
| 13年度(第5回) | 291人 | 118人 | 173人 |
| 14年度(第6回) | 277人 | 111人 | 166人 |
| 15年度(第7回) | 314人 | 118人 | 196人 |
| 16年度(第8回) | 294人 | 115人 | 179人 |
| 17年度(第9回) | 299人 | 121人 | 178人 |
| 18年度(第10回) | 278人 | 110人 | 168人 |
| 19年度(第11回) | 312人 | 126人 | 186人 |
| 20年度(第12回) | 285人 | 117人 | 168人 |
| 21年度(第13回) | 267人 | 105人 | 162人 |
| 22年度(第14回) | 310人 | 117人 | 193人 |
| 23年度(第15回) | 272人 | 110人 | 162人 |
| 24年度(第16回) | 294人 | 113人 | 181人 |
| 25年度(第17回) | 291人 | 124人 | 167人 |
| 26年度(第18回) | 278人 | 107人 | 171人 |
| 27年度(第19回) | 269人 | 124人 | 145人 |
| 28年度(第20回) | 288人 | 114人 | 174人 |
| 年 度 | 卒業者数 | 国際文化学科 | 情報システム学科 |
| 29年度(第21回) | 282人 | 106人 | 176人 |
| 30年度(第22回) | 286人 | 110人 | 176人 |
| 令和元年度(第23回) | 285人 | 118人 | 167人 |
| 令和2年度(第24回) | 302人 | 116人 | 186人 |
| 合 計 | 6,956人 | 2,782人 | 4,174人 |

※9月卒業生含む



退職教員 あいさつ



情報システム学科 教授 西山 茂

に恵まれました。あたたかくご指導いたいた先生方。何より、ともに学び、高めあい、学生生活を送つてきた友人たちとの出会いが、今この壇上で答辞を述べている自分が、つくつとつくれたすべての方に感謝します。

本当にありがとうございました。

今後の後輩の活躍と新潟国際情報大学の発展を願い、答辞とさせていただきます。

| 祝電 | |
|---------------|-----------------|
| 五十音順 | |
| 岡三にいがた証券株式会社 | 代表取締役 社長 辻 和彦 様 |
| 株式会社マルイ | 代表取締役 清水 保 様 |
| 株式会社日本ドリコム | 代表取締役 小林淳一郎 様 |
| 代表取締役 清水 辰雄 様 | 廣田 幹人 様 |

2021年の3月末日をもって、新潟国際情報大学を定年退職（退任）します。2010年4月1日に着任しましたので、丸11年本学に在職したことになります。

座学や演習で大勢の学生にもの・ことを教えるということ、研究室等で少人数の学生と議論しながらもの・ことを作り上げていくことは、極めて刺激的であり、有意義で楽しい時間を過ごせました。

教員には教育・研究以外にも大学運営のための仕事があります（学内行政）

（というらしい）。この仕事は私が本学着任以前に携わった企業や行政機関の仕事と似ている部分もありますが、なる部分も多々あります。学内行政は決して楽しくはありませんでしたが、大変勉強になりました。

研究は、・・・残念ながらそこそこ

と言ったところでしようか。

末筆になりましたが、本学のさらなる発展を祈念するとともに、これまで接した多くの学生、支えてくださった保護者の方々、教職員の方々に厚くお礼を申し上げます。

刺激的で楽しい有意義な時間

日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている、情報システム技術プログラムの令和2年度修了生には「技術士補」の資格が与えられ、文部科学省令で定める技術士資格一次試験免除の優遇措置が受けられます。また、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたことが社会的評価として与えられます。

今後も研さんを続け情報交換を行うために、技術士と教員による交流会を年2回、新潟と東京で開催しています。このような機会も利用して、ますます社会で活躍されることが期待されています。

日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている、情報システム技術プログラムの令和2年度修了生には「技術士補」の資格が与えられ、文部科学省令で定める技術士資格一次試験免除の優遇措置が受けられます。また、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたことが社会的評価として与えられます。

私の大学生活4年間は「軽音楽部」という居場所なしでは成り立たなかつたと、大学生活の終わりを前にしてとても感じています。

私は、野球部以外に所属したことがなく、大学でのサークルや部活動は未知のもので、不安しかありませんでした。そんな時、声をかけてくださったのが軽音学部の先輩でした。少しでも早く馴染めるように、初心者ながら、のめり込むようにベースの練習を始めました。そして音楽の良さを知り、バンドを組む楽しさを知ることができます。

298人が学びを胸に学窓巣立つ

令和2年度卒業式

令和2年度（第24回）卒業式が3月19日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）コンサートホールで行われ、298人（情報文化学部186人、国際学部112人）の卒業生が、夢と希望を胸に社会へ羽ばたきました。

式典では卒業生が一人ひとり名前を呼ばれて起立し、各学部代表に野崎茂学長から学位記が授与されました。

野崎学長は、「皆さんにはダイヤモンドの原石です（略）。玉磨かざれば光なし、磨くことを怠ってはいけません。これからも磨き続

けてください」とささやきました。

式辞を述べました。続いて星野元理事長が祝辞を述べ、「勇気と覚悟をもつて果敢に挑戦し、難局を乗り越えてほしい」と餞の言葉を贈りました。

卒業生を代表して国際文化学科の宮下凌さんが「大学生活では多くの出会いに恵まれました。かけがえのないこの4年間の時間をつくってくれたすべての方に感謝します」と答辞を述べました。

昨年度の卒業式はコロナ禍で中止されたため、2年ぶりの実施となりました。今回は感染防止対策として、入場者を制限（保護者の入場は卒業生1名につき1名とする等）して執り行われました。



学長賞（学業成績優秀者）

情報システム学科 後藤 瑞斗

国際文化学科 宮下 凌

地域交流賞

情報システム学科 西村 真武

国際文化学科 金田 渚沙

数年にわたる農村地域活動の集大成として新潟の特産品の発信や交流の場の提供などに貢献した。

光体験サービスの開発や地域の魅力発信など、ローカルSDGs実践の取り組みを行い、SDGs推進に貢献した。

情報システム学科 川上 早紀

国際文化学科 宮下 凌

T.C.Y.Lab

国際文化学科 伊藤 充来

高度な資格取得に向け努力し、優秀な成績を修めた。

また、英語や中国語の通訳ボランティアとして語学を活かし課外活動に積極的に取り組んだ。

高度な資格取得で優秀な成績を修め、英語の通訳ボランティアとして活躍した。

情報システム学科 佐藤 麻実

国際文化学科 佐藤 麻実

高度な資格取得で優秀な成績を修め、英語の通訳ボランティアとして活躍した。

情報システム学科 佐藤 麻実